

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和4年度第4回 理事会議事録

令和4年5月19日（木）11:30～13:30
神戸国際会議場 503会議室

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、
高橋 寛、竹下 克志、田中 信弘、筑田 博隆、土井田 稔、
永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、根尾 昌志、橋爪 洋
波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播戸谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・波呂浩孝が議長となり、開会を宣して議事に入った。

理事長挨拶

新理事長就任の挨拶を述べた。今後2年間の方針として、日本脊椎脊髄病学会レジストリー（JSSR-DB）の促進、日本専門医機構サブスペシャリティ領域として認定される「脊椎脊髄外科専門医制度」の規程とカリキュラムなどの整備、脊椎脊髄疾患関連の診療ガイドラインの未解決CQに対して学会プロジェクトを立ち上げて対応すること等を挙げ、審議に入った。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（4月分）

4月の入退会について全員を承認した。

他県に異動し資格を喪失した推薦評議員がいるが、評議員選出規程には任期途中で推薦評議員が資格を失った際の対応の記載がないため、定款等検討委員会にて素案を作成することとなった。

3. 委員会のメンバー決定について

令和4年度委員会メンバーについて承認した。

永島理事が、ヒストリアン委員会について、50周年記念誌編集のための一時的な増員であることを説明した。大鳥理事が、オブザーバーの役職名称をアドバイザーに統一

したことを補足した。

4. 年間の理事会予定の件

2024年から導入される医師の働き方改革を受け、理事会の開催時間を可能な限り就労時間内に設定することを提案した。検討の結果、暫定的に第3月曜日の14時～16時に開催とすることとし、各々のスケジュールによって途中参加・途中退室を可とした。

次回理事会（Web）：6月20日（月）14時～16時

次々回理事会（Web）：7月11日（月）14時～16時

また、各委員会活動の時間も委員の希望を担当理事が確認し、可能であれば就労時間内に実施する方針とした。

5. 顧問税理士の件

現在の顧問税理士の石原先生が2022年度決算をもって退任予定であるため、後任の顧問税理士として秋田和一先生（能登屋会計事務所所属）を提案した。複数の学会会計業務を担当している実績と見積顧問料を検討し、波呂理事長と大鳥理事が秋田先生とZoomで面談し、その結果によって正式に顧問を依頼することとなった。

6. 倫理委員会の藤田先生（医師・法律家）の件

倫理委員会では最近プロジェクト研究等の増加でメール審議の回数が増えている。非会員の藤田先生（医師・法律家）が倫理委員会に委嘱されているが、理事や委員長からの個別の相談等もされている現状から、1月あたり1万円で年間12万円の報酬を支払うことが提案された。一同検討の結果承認した。

非会員への報酬は、会議・相談事項の回数や内容、該当者の専門分野等を踏まえると、一律に金額を規定することが難しいと判断されるため、理事会で都度審議できるよう、「旅費に関する内規」の内容を定款等検討委員会にて変更することとなった。他の委員会の非会員についても、専門的な問合せや相談が頻繁に発生している場合は報酬を検討するため、そのような委員がいる場合は大鳥理事に一報することとなった。

7. 委員会英語表記の件

英文の委員会表記について、「○○Committee」と「Committee of ○○」の2つの表記が混在しているため、日本整形外科学会に倣って委員会表記を「○○Committee」に統一することを承認した。

学会ホームページに掲載予定の理事挨拶文（英文）については、広報委員会にて委員会表記を「○○Committee」に統一した上で掲載することとし、英語表記の委員会一覧表もホームページ掲載用に広報委員会が作成することとなった。

8. ヒストリアン委員会より：記念誌作成作業のためのDropboxの契約と収集した資料の保存方法について

学会設立50周年記念誌編集作業にあたり、Dropboxの契約をしたいと述べた。また、過去の希少資料を、Dropboxだけでなくデータベース委員会で使用しているレンタルサーバー上に2段階で管理することで後世に残してきたいと提案した。一同検討し承認した。尚、サーバーに保管する資料は前もって永島理事が選定し、保存データが膨大になることを防ぐこととした。

9. データベース委員会より：JSSR-DB 事務局の常設PC の件、ベンダー企業SEのJSSR-DB 会議参加費用の件

2022年4月1日から通年登録が開始された日本脊椎脊髄病学会症例登録レジストリー（JSSR-DB）について、JSSR-DB 事務局常設PC購入の要望書を提示し承認を求めた。データクレンジングや解析作業のために必要と判断し、一同検討の結果承認した。さらに協力企業のシステムエンジニアの会議参加費用（年間18万円程度）を承認した。

10. 専門医制度委員会より：第14 回認定試験結果の件、脊椎脊髄外科領域専門医検討委員会規約の件、脳神経外科から日整会へあてた文書の件

2022年4月23日に横浜で実施された第14回専門医試験の結果（受験人数72名、合格者70名、不合格者2名）を承認した。

続けて、日本専門医機構からサブスペシャリティ領域の候補として認定された「脊椎脊髄外科専門医」について、脊椎脊髄外科領域専門医検討委員会規約を承認した。日本脊髄外科学会との作業部会でも既に承認されており、5月末までに日本専門医機構へ提出することが補足された。

続いて波呂理事長が、日本専門医機構と日本整形外科学会宛に日本脳神経外科学会から「脊椎脊髄外科専門医」に関する要望書が届いたことを報告し、その概要を述べた。担当委員会と日本脊髄外科学会との脊椎脊髄外科領域専門医検討委員会にて検討していくこととなった。

11. 教育研修委員会より：第2 回脊髄モニタリング認定医試験結果の件

2022年4月23日に横浜で実施された第2回脊髄モニタリング認定医試験の結果（受験者97名 合格者97名）を承認した。

また、脊髄モニタリングワーキンググループについて、モニタリング認定が稼働し試験業務や認定・更新業務など作業ボリュームが大きくなっている現状を踏まえ、教育研修委員会から切り離し脊髄モニタリング委員会として委員会に昇格することを提案

し一同承認した。竹下理事が担当理事として委員案を検討し、6月の理事会で提案することとなった。

12. その他

新技術評価検証委員会より：XLIF®-ACR® の一般施設使用の可否について

XLIF®-ACR® の一般施設使用の可否と一般施設使用についてのホームページ上の公開について、資料を提示し承認を求めた。合併症の発生事例等があることから、使用上の注意や使用可能な執刀医の基準などを明確に示し、尚且つ使用する際は各施設の倫理委員会等で審議することを条件に加えることとして承認した。

2. 審議・報告事項

1. 倫理委員会報告 プリオンアンケート調査

プリオンアンケート調査について倫理審査が終了したと報告した。

また2022年4月から改正個人情報保護法が施行となり、オプトアウトが制限されることになりそうだと説明した。厚生労働省からのガイダンスを確認し、JSSR-DBへの影響などを検討することとなった。

2. 広報委員会報告

ホームページの新理事会発足に伴う変更や第 51 回日本脊椎脊髄病学会報告などを準備中であることを述べた。またホームページのメインページからの各種情報へのアクセスが分かりにくいため今後改善することと、日本整形外科学会のパンフレットの調整点を報告した。

3. 指導医制度委員会報告

2022 年度指導医継続申請要項について、申請様式の追記と手術症例の登録期間の修正（2017年10月1日～2022年6月30日 → 2017年8月1日～2022年7月31日）を行ったことを報告した。手術症例の登録期間については、指導医認定期間の5年より短かったため、認定期間に合わせるために修正したことが補足された。

4. 教育研修委員会報告

日本脊椎脊髄病研修コースについて、IIコースの廃止と第20回研修コースの参加者数を報告した。続いて今回のクリニカルフェローは2名と報告した。

5. データベース委員会報告

データベース事業の2022年度予算概要と、脊椎脊髄病ナショナルレジストリー（RWD）・PMSシステムの構築について報告した。また指導医制度委員会および専門医

制度委員会との連携を図っていくことを説明した。

6. 新技術評価検証委員会報告

5年間に渡って実施されたLIF合併調査が完了し英文論文化することを報告した。社会保険等システム検討委員会との連携・新規医療機器（材料）の市販後調査システム構築についても概要を述べた。

7. 社会保険等システム検討委員会報告

セメント注入スクリューの加算は想定していないこと、仙腸関節固定は低侵襲デバイスについての新規技術で今後の検討課題であることを報告した。

8. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

Spine Week Japan 2025（2025年10月30日-11月1日、幕張メッセ）の運営事務局が日本コンベンションサービス株式会社に決定したと報告した。コアワーキンググループを6学会会長を中心に設置し、具体的な準備をしていくと述べた。

9. その他の委員会報告

特に無し

10. その他

伊東理事が、NASSからJSSRへ色々なコラボレーションをしたいと提案があると述べた。伊東理事がGlobal Spine Congress 2022に参加予定のため、NASSとの連携について意見があれば伊東理事へ一報することとなった。コラボレーションの可否や内容については国際委員会でも検討する。

以上

令和4年5月19日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三